

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆったり、楽しくありのままに、暮らして頂くをモットーに職員全員が理念を頭に入れ日々業務に就いている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設長を初め職員一同が理念を共有し、理念に少しでも近づけるように努力しながら仕事をしています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	半年に一度広報(ほほえみ便り)を作成し、理念や行事、入居者の生活の様子を掲載し、地域に配布することで理解を得よう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	祭りやイベントには、行ける時には参加している。出勤時に近隣の方々とすれ違う時はこちらから積極的に挨拶をしている。		祭りやイベントには行ける時には参加しているが、まだまだ隣近所の人達が気軽に立ち寄ったり、日常的な付き合いには至っていないと思うので、取り組んでいきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内の祭りやイベントに参加して地域の方と交流を図っている。デイサービスで地域の方々による慰問等ある時は、利用者とともに参加している。また防災協会に入ること、地域の一員として町内の方々と交流し親睦を深めることができるよう努めている。		自治会、老人会との交流は少ないので、もっと深く交流が出来ると思う。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	台風などの災害時、地域で独居生活のため不安を感じておられる方は、本人との相談のうえ、一時的に宿泊して頂き食事などを提供している。また災害に備え保存食を準備している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	施設長を始め職員全員が外部評価を実施する事の意義を理解している。第三者の視点から見てどうなのか？良いところ、改善すべきところを指摘されることによって職員がどうしたら改善できるか話し合うことで、ほほえみ館全体のスキルアップに繋がると思う。指摘項目はスタッフ会議で全職員が共有し改善に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しており、困難事例やケアの現状、ヒヤリ・ハット等を報告し、委員からいただいた意見をスタッフ会議で報告し検討している。また、行事の報告も行い、ご家族の参加を呼びかけ実施後には感想等を伺うことで、次に活かしている。他施設の取り組みを知り、学ばせて頂く場にもなっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な点や困った事等生じた場合は電話で相談したり直接出向く等して問題解決に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加し、スタッフ会議で報告している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料で学ぶとともに、スタッフ会議でどういうベッド柵の使用法や声かけが虐待になるのか等を具体的に話し合いながら、それぞれが日頃のケアを振り返ることで虐待防止に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学時より詳細に説明するように心掛けている。契約に際して事前に契約書を渡し、入居時再度説明しながら、施設において可能・不可能な部分等説明するようにしている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、介護相談員制度を利用し、利用者と直接会話して頂くことで意見や不満を部外者へ表せる機会をつくっている。御意見等いつでも聞けるような働きかけをしている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時にその都度報告している。利用者の外傷や健康状態の悪化、認知症状の変化など、速やかに報告すべきと判断した時は、ご家族の来館を待たずこちらから電話連絡を行っている。遠方で面会が少ないご家族には、利用者の生活状況を書いた手紙と写真を郵送している。預かり金は専用ノートに記載し、ご家族に目を通して頂いている。職員の移動は掲示板で報せている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほほえみ館、玄関に苦情相談箱を設けている。また、入居時の契約書に苦情相談窓口として職員名を明記し、玄関には、外部の苦情相談窓口の連絡先を掲示している。意見等があった場合は、スタッフ会議で検討し結果を掲示するとともに、推進会議での報告、意見の徴集も行っている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ会議を設け現在困っている問題をピックアップし職員全員で協議している。その決定事項を全員で対応していく方針をとっている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成前に各職員の希望休を出来るだけ受け入れていく。職員の突発的休業に対してもお互いが理解しカバー出来る態勢作りをしている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動前に、利用者の心身の状況、ケアの方法、注意点等を伝えておき、新しい職員ができるだけスムーズにケアに入ることによって利用者のダメージを少なくできるように努めている。また日頃から他のフロアの利用者にも声かけするなどして、馴染みの関係をつくるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、性別年齢等については関係なく、本人の積極性・老人に対する思いやり等を主体に考えている。勤務する上でお互いが協力しあえる態勢作りを主として楽しく勤務出来るよう取り組んでいる。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>近隣で実施されている人権研修に対して積極的に参加しスタッフ会議において全員に報告してもらっている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修については、その都度参加の促しをしている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内催し物等にも積極的に参加している。業者間の交流等実施している。(バレーボール大会等)</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>アロマセラピー、リラックス法を導入している。カウンセリングや食事会等を実施している。</p>		
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々の努力実績状況把握に努め健康管理には特に注意を払い日々お互いで協力カバーし健康維持に努めている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前調査を行い、今の生活で困っていることや、入居に対してどう思っておられるかなどを伺っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に事前調査を行い、どんなことに困っているのか、どうやって生活の援助をしてこられたのか、またグループホームに望まれることや、本人にどんな暮らしをして欲しいと思っておられるのか等を時間をかけて伺っている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話での問い合わせでは、グループホーム以外のサービスがあることや、入居に対する迷いがある時はショートステイや体験入所を利用して、認知症状に困っているなら専門医に相談してみるなど色々な方法があることを伝えている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に必ずご家族から本人に入居の説明をしてもらっている。体験入居を利用し、本人がグループホームでの暮らしに馴染めるか様子を見て、正式に入居して頂くなどの工夫をしている。また、事前調査には職員が同行し、顔見知りの関係ができるよう努めたり、すでに入居されている方の中に同じ地域出身の方がおられる時は近くの席にして会話のきっかけづくりをするなどしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に洗濯物をたたんだり、裁縫の得意な利用者には、他の利用者のボタン付けをしてもらうなど共に生活することを念頭に置いている。利用者の思い出深い出来事や苦労話には、他の利用者と共に耳を傾け、思いを共有しながら学ばせていただいている。		
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の役割をケアプランの中にも盛り込んでいる。面会時に情報提供を行い、ご家族からも以前の生活状況や本人の歩んでこられた歴史を教えていただき、ケアに活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者が話された、ご家族への感謝の言葉を面会時に伝えたり、ご家族が話された思いやりの言葉を利用者に繰り返し伝えるようにしている。本人のちからに応じて遠方でなかなか会えなくても、電話で話してもらうなどしている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスを利用したり、入所前通われていた美容室、病院に行ったりする事で馴染みの人や場所との関係がとぎれないよう努めている。花見などの外出行事も、できるだけ事業所の近くや利用者の地元に行っている。		地元が遠いとなかなか本人の馴染みの場所に行くことが難しい。まずは、会話の中から思い出の場所などを把握することから努めている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者一人ひとりの趣味や生活歴、利用者同士の相性等の把握に努めている。話が弾む利用者と同じテーブルにする、以前教師だった方は他の利用者のプリントを採点する、一人が洗濯物のシワのばしをし、別の一人が干すなど、それぞれの力を活かしながら関わり合えるよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状悪化のためグループホームを退去し入院された方でも、できる限りお見舞いに伺い、ご家族が今後の生活に不安を抱いておられるときは相談にのるなどしている。また、退所後ご家族が来館された時は利用者の現状を伺ったり、グループホームでの思い出話をしたりするなどして、関係を断ち切らないつきあいに努めている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりのペースでなるべく生活出来るように支援している。本人様にやりたい事や趣味を聞き、出来る限り提供している。困難な方には家族の方に何が好きだったか話を聞いて、提供している。		
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の方の生活歴・趣味や暮らし方を入居前の事前調査で把握し、本人様にも照らし合わせて聞いて馴染みの生活等の把握に努めている。		本人の歴史を知るため、できれば一人ひとりの子供のころの様子なども伺いたいが、ご家族が把握できている情報も限られており限界がある。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとり生活の仕方も違いがあり、一日をどのように過ごしたをケース記録に記載し、また、食事・排泄・入浴等はチェック表を作成し一日毎に記入し把握に努めている。認知症のため、できない・わからない、と決めつけるのではなく、些細な言動でも気になった事はケース記録に記入するなどしてスタッフ間で情報を共有し、引き出せる力がないか検討している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ケアにあたっている職員に意見を聞き、出来るだけ意見を取り入れたケアプランを作成している。面会時に御家族に希望や心配な点などを伺いケアプランに反映している。		本人には意見を聞いているが、家族にはなかなか意見が聞けない場合が多い。遠方であったり、なかなか面会に来られない家族もあるのでもっと工夫して意見を取り入れていきたいと思う。また、本人にとっての望ましい暮らしとは何なのか、本当に居心地良く安心できる場をつくるにはどうしたら良いのか、現状に満足せず取り組んでいきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っている。認知症状の変化やそれに伴う生活障害の出現などを観察し、ケアの変更が必要な時はできるだけ速やかに話し合い、現状に即したケアが提供できるように努めている。		現状に即したケアの実行が優先し、記録に反映させるのが後回しになることがある。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケアでの変化や気づきをケース記録に記入している。職員間でも情報をやりとりし共有している。こういう場面でこんな声かけ、こんな工夫をしたら上手く出来たなど、その場になかった職員にも伝わり、ケアに活かせるようできるだけ具体的に記入するよう努めている。		全職員でケアカンファレンス、モニタリングを行っているので記録に反映していきたい。分かりやすいアセスメント表や、モニタリング表、ケアプランの書き方を、現在検討中。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	デイサービスに通われていた方が、ご家族の要望により、馴染みの施設で宿泊されたり、在宅生活が困難になった時は、グループホームに入居しながらも、デイに遊びに行き顔見知りの職員や利用者や接することが出来るなど、多機能性を活かした支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の理髪店に来館してもらっている。民生委員さんに運営会議参加、アロマセラピーのボランティア参加してもらっている。		地元のボランティアや警察などとの連携までは至っていない。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望で、入居前に通われていたデイサービスや病院、馴染みの店に行ったり、タクシーを使ったりできるように支援している。地域の他のケアマネジャーとの相談や話し合いの機会を持ち協力してもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	サービス運営推進会議のメンバー1名出席してもらっているので会議の中で相談したりアドバイスを受けていたりしている。又、支援センター等で行われている検討会等にも参加している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切に、入居前のかかりつけ医の受診が出来るようにし、適切な医療が受けられるよう対応している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等の受診が必要な入居者に対しては、医師と連携を築きながら、職員が相談し診断や治療を受けられるよう支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ病院の看護職員が面会に来て、本人と直接話したり、グループホームの看護職と情報交換を行ったりしながら支援している。		
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は病状だけでなく、認知症状や、本人が混乱なく過せるためのケアの工夫や生活上の注意点などを書いたサマリーを添付している。また入院時はできるだけ付き添い、口頭で再度申し送りをし、不明な点は遠慮なく問い合わせをもらうよう申し添えている。入院後は出来るだけ面会し状態の把握に努めている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の入居者の御家族には早い段階からかかりつけ医と話し合い、書面での説明も十分に行っている。治療を望まれるのかグループホームで看とりまでを望まれるのか、ご家族にとっても悩まれることが多く、意向が変わることもあるため、その都度話し合いの時間をもち、ご家族の気持ちを含め結果をケース記録に記載し、情報を共有している。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、ご家族の不安や望まれることをその都度時間をとって伺っている。グループホームでできることと、ご家族が希望されることを十分に話し合い、かかりつけ医も含め同じ思いと方針を持って支援できるよう努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前調査で、在宅での生活の様子や工夫していることなどを伺い、入居前に職員間で情報を共有、検討しケアを行っている。馴染みの食器や家具、思い入れのあるものを居室に置き、その人の地元の言葉を使うなどして、住み替えによるダメージを最小限にできるよう努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個人のプライバシーを損ねないように声掛けには注意をはらっている。例えば排泄の声かけや失敗の後始末は、個々に応じて他者に分からないよう配慮している。入浴は個室で、下着やオムツ類は見えにくいようタオルで覆って持ち運んでいる。居室入り口のネームプレートはご家族の了承のもと貼っている。カルテは所定の場所に置いている。		
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が一方的に声かけするばかりではなく、本人の返事を待ったり、本人に通じる言葉を探して話すなどしている。言葉で表せなくても表情や、動作、以前の生活から推測できることはないか注意深く観察し自己決定の支援につなげている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は出来るだけ本人の希望に沿った時間、方法で行っている。食事、睡眠など、職員が一方的に時間を区切って介助するのではなく、本人のやるうとする意欲や力、ペースを大事にしている。また、居室で一人、ゆっくり食事することを希望される方は、居室に配膳するなど、安全の範囲内で行えるだけ希望に添えるよう努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者が望む美容院に行けるようにしている。ご家族に以前好まれていた服装を教えていただいたり、アルバムをもとに若いころどういうおしゃれや髪型をされていたのかを把握して、その人らしい身だしなみが出来るよう努めている。また、行事のときには、希望される方にはお化粧品をしたり、一緒に服を選んだりしている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食時職員が利用者と一緒に食事をしている。食後の後片づけを一緒に行ったり、テーブル拭きを入居者が進んでいる。誕生会では好みのメニューを取り入れている。食事制限のある方でも食べる楽しみが持てるよう、主治医と相談し、嗜好品を取り入れたりしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者がタバコなどを吸う時は、タバコライターは職員が管理し本人さんが言われた時にその都度渡すようにしている。喫煙所を一カ所設けている。ヤクルトや梅干など好みのものは、毎日決まった分だけ提供している。ご家族や面会の方からの差し入れは職員がお預かりして適宜提供したり、時には他の入居者と共に頂きながら、楽しみを共有している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者さん各個人の排泄チェック表を設け排泄パターンを把握しトイレ誘導などに役立っている。言葉では尿意等を訴えられない方でも、その人なりの排泄のサインを見つけ、トイレ誘導に役立っている。わずかな失敗ですぐにオムツに頼ったりせず、どこに問題があったのか把握し、工夫することで排泄の自立に努めている。		
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個浴でゆっくり楽しんでいただいている。単に清潔保持が目的ではなく、職員と一対一になれるため、他者の前では言いにくいことを話されたり、お風呂がきっかけとなって昔のことを思い出されたりと、リラックスしながら気持ちを表す場にもなっている。また、不十分ながらも自分で洗身や着脱しようという意欲を大事にし、小さいタオルや着脱しやすい服を使い自分の力でできる工夫をしている。		水曜日を午前中は寝具交換、午後を1階2階合同のレクリエーションの日としているので、その日は入浴が行えない。その他の曜日には午前と午後に分かれて入浴が出来るようにしている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者さん個人の生活習慣や状況に応じて支援している。夕食後フロアでお茶を飲みながらテレビを見たり、気の合う利用者と会話したりしてゆったりと過ごした後、就寝されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	以前教師をされていた方に、他の利用者がされた計算問題を採点してもらったり、朝の会で点呼をとってもらったりしている。書道が得意な方は、運動会など行事ごとに看板に字を書いてもらっている。洗濯物のシワ伸ばしは、自分の服だと着てしまう方には他者の服を、片麻痺の方には小さいタオルを渡すなどその方に合った支援をすることで、それぞれが生活の中で役割を持てるようにしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じてお金を持つことが出来る。嗜好品なども定期的に購入することができるようにしている。		以前は所持金があったものの、認知症の進行と共にほとんどが持つことができなくなっている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見、夏祭りや運動会については全員参加してもらっている。体調や季節を考慮し、個別に外庭に出るようにしている。		もっと外出の希望を引き出していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の協力により、時にはいっしょに出かけたり、宿泊されたりしている。その際は生活上の注意点などをご家族に説明している。		本人の行きたいところを把握するのが難しい。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の力に応じ、支援している。遠方のご家族に電話を取り次いだりしている。		字を書く力が残っている方は、生活状況を書いた手紙に、直筆のメッセージを添えて郵送するなど取り組んで生きたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会が可能なことを伝え、来館時にはこちらから挨拶するようにしている。談話室も自由に使うことが出来、ゆっくりくつろいでいただけるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ会議で拘束について学んでいる。どういうベッド柵の使い方が拘束になるのか等具体的に把握するよう努めている。転倒のリスクが高く、尚且つナースコールも押せないなど、やむを得ずセンサーやベッド柵を使用する場合は、理由やその場の状況等をご家族に説明し同意を得ている。また実施後は、拘束以外の方法はないのか、拘束の継続は必要なのかなど検討するようにしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は午前8時～午後6時まで鍵をかけないようにしている。その間はセンサーによるチャイムを使用している。居室の鍵について個人のプライバシー保護の為、検討しながら実践中である。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者がフロア内のどこにおられ何をされているのが常に把握するよう努めている。夜間は一時間に一回は各部屋を巡回し、異常がないか確認している。		職員の訪室を望まない方や、ケア中に他入居者から目が離れがちになるなどの問題もあり検討している。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	持参されている物品については可能な限り残す工夫を実施している。注意の必要な物品は目につかないように直している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	半年に一度防災訓練を行っている。使用時以外はコンロをロックし、利用者のタバコ、ライターは本人に分からないよう職員が管理している。薬は複数の職員が目を通し内服前に薬袋の名前を確認している。個々の嚥下状態に応じてとろみをつけたり調理法を変えたりし、食札に明記する事で誤嚥がないようにしている。夜間転倒のリスクが高い方は、センサーや鈴を利用し早めに対応できるようにしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時に備え応急処置・初期対応の訓練を行っている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼夜を問わず利用者が避難出来るように、避難訓練を定期的に行って避難方法を身につけるようにしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	考えられるリスクは入居時にご家族にも説明し、対応策について意見を伺っている。鈴やセンサーを利用し、利用者の動きをできるだけ早く察知し介助できるようにしている。また、行動パターンの把握に努め、動線に沿って家具を配置する等、環境面での工夫も行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者各個人のバイタルチェック表を作成し体調の変化がすぐに分かるようにし、連携病院に連絡し情報を共有し早期対応に努めている。自ら体調不良を訴えられない方も多いため、顔色や行動の変化などに注意し、気になる時はバイタルチェックして経時的な観察に努めている。また、連携病院より定期的に医師、看護師が来館し体調管理を行っている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人のケース記録に服薬している処方箋を挟んでおり、服薬の変更時には連絡ノートに記載し職員が把握出来るようにしている。特に緩下剤などはバイタルチェック表に記載し、薬の変更とそれともなう排泄の変化が把握しやすいようにしている。また、連携病院の看護師がバイタルチェック表に目を通し、服薬後の症状変化を医師に伝えている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便の把握をバイタルチェック表に記入している。便秘ぎみの利用者には水分摂取を促したりしたり、腸の動きが活発になるよう八ビリ体操で体を動かしていただくよう声かけしたりしている。整腸作用のある食品、寒天などを食事に取り入れている。食物繊維の多い食品、さつまいもなど食事やおやつに取り入れている。善玉菌の多い飲むヨーグルトを朝食に取り入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者に口腔ケアの声かけをし行っている。利用者の状態、に合わせた介助をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士や調理士により、一日の食事量が1400～1500キロカロリー、おやつが100キロカロリー前後になるよう献立が立てられている。お茶やヨーグルトで水分補給をし、あまり飲もうとされない方は湯飲みにしるしを付け、どのくらい摂取されたかの目安にしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防に対するマニュアルを作成している。年間を通して、うがい、手洗いを励行し、消毒用アルコールを各場所に置いている。毎日の拭き掃除には、マニュアルに従い希釈した次亜塩素酸ナトリウムを使い、手すりまで含めて掃除している。調理器具は熱湯消毒し、食材には十分火を通してしている。食器乾燥機をその都度使用している。利用者、職員ともに毎年予防接種を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は実際に現物を見て新鮮で安全なものを購入している。調理前は器具、まな板等の熱湯消毒を行い、食器は常に乾燥機を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、建物周囲の清掃に努め、明るく親しみやすい雰囲気づくりに努めている。外庭をかこむフェンスからは、ウッドデッキや一階フロアに面した大きなガラス窓を通して利用者や職員の姿が見えるなど、開放的な作りになっている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や絵、折り紙など季節の風物詩を取り入れて飾っている。白内障の方も多いため、カーテンや椅子の位置を考慮し眩しすぎないようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	同じフロア内でも落ち着ける場所が一人ひとり違うため、それを把握し椅子を置いたりしている。また、気の合う利用者同士を近くの席にするなど工夫している。		見守り重視の観点から、椅子を置く程度で、仕切りを利用するなど一人でくつろげる場所づくりまではできていない。今後検討していきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から持ってきた椅子やテーブル、使い慣れたテレビ、思い出の写真や、昔作った自慢のレース編みなどを置き、居心地良く過ごせるようにしている。安全の面から、居室内のベッドやトイレの位置を自宅と同じ配置にし、安心して生活できるようにしている。		転倒や異食行為などの危険がある時は、本人やご家族と相談のうえ居室を整理する事もある。また本人が馴染みの家具などにあまりこだわりがないこともある。できるだけその人らしい居室となるよう努めていきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室、トイレには換気扇がついており24時間換気をしている。排泄物はその都度適切に処理している。フロアに置かれた温室度計を参考に、温度調節は外気との差がないようにし、加湿器を使って乾燥しないようにしている。また、乾燥がインフルエンザ等の感染を助長することを全職員が学んでおり、感染予防の観点からも、換気や空調に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、廊下は左右に手摺がついている。歩行器や車椅子でも十分通れる広さになっている。フロア内にある二箇所のトイレは広く手摺が付いており、ADLや左右の麻痺の状態に応じ使い分けている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室、居室にはそれぞれの分かる力に応じて目印を付けている。個人の持ち物には分かりやすく名前をつけ、本人が把握しやすいようにしている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	館内には庭があり、利用者が花を植えたり、プランターに花を植えたりしている。また運動会や夏祭りを庭で行ったり、ベランダで日向ぼっこをしたりして楽しんでいる。建物から少し行くと散歩コースがあり、時々利用している。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
100	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない